

栄光

説教・「マラナ・タ」	種房正勝教師…1
特集・旅に出よう	……………2
狩野進之佑牧師 就任式報告	……………5
書評	……………5
説教・「聖霊の 不思議な働き」	……………6
岸牧師	……………6
教区総会報告	……………7
長老のファイル	……………7
牧師の書斎から	……………8

説教

『マラナ・タ（主よ、来てください）』

コリントの信徒への手紙一 16章13～24節

種房正勝

『マラナ・タ』は、コリントの

信徒への手紙一の結びの言葉です。「主よ、来てください」という意味です。パレスチナ・中近東・小アジア・ギリシア地域で、当時は共通の商業用語として広く使われていたアラム語です。「マラナ」が二人称の呼称で、「タ」が二人称の命令形ですので、「主キリスト・イエスよ、あなたが来てください」と、真剣に祈る言葉です。

新約聖書はギリシア語で書かれています。この言葉だけアラム語（イエス・キリストもアラム語を話されていたと言われています）で強調されています。パウロは、いわゆる第二次伝道旅行で、紀元1世紀の半ば頃ですが、1年半ほど滞在したコリントに教会を

創設しました（使徒18・11）。

古代ギリシア都市コリントは、アカイア州のコリント海峡に在り、東側はエーゲ海のサロニコス湾、西側には地中海のコリント湾があり、南のペロポネソス半島と北のギリシア本土を結ぶ交易の要衝にあります。この古代都市をカエサルがローマの植民都市として再興し、活況を呈することになります。コリントは、奴隷も含むありとあらゆる世界各地からの人たちが住む商業・貿易・政治の中心となり、人口も60万人に達しました。そんな状況の中で、パウロは、いずれ死によって朽ちていく血肉は、朽ちない神の国を受け継ぐことはできない。しかし、わたしたちの主イエス・キリストによつ

て、わたしたちが常に主の業に励み、主に結ばれているならば、死はイエス・キリストの正義の勝利に飲み込まれ、最後の勝利のラッパが響き渡ると、一瞬の内に死者は復活して朽ちないものとされる、と神の義の神秘を告げます。この瞬間が終末の到来です。

終末は確かに主の裁きの時です。わたしたちが常に主の業に励み、主を礼拝し、主に結ばれているならば、喜びの時の到来でもあります。旧約聖書合わせて66巻

2000頁の最後の御言葉も、「主イエスよ、来てください」（黙示録22・20）で結ばれます。ヨハネの黙示録では、神がわたしたちと共に住まわれる新しい天と新しい地が、神の義によつてもたらされることが預言されています（21・5～8）。わたしたちは、信仰によつてその新しい天と地に招き入れられます。

わたしたち人間は、創造主であられる「神に背を向け」て、すなわち「神にへりくだらず」、自らを一番「心の貧しいもの」とせず、自分を中心にして傲慢にふるまい、結果として「必要以上に求

める」、すなわち「むさぼる」という「罪」を負った者であります。キリスト・イエスは、この人間の罪を贖い、神と人間が和解できるようにと、十字架の上で御身を代償として差し出してくださいました。さらに、神との和解の福音を、すべての民に遍く届け、見守るために、復活され、天に上り、聖霊を降臨させ、今も生きて神の右に座しておられるのです。

この地上でのイエス・キリストの贖いによる神との和解は、英語では「at-one-ment」と表現されます。即ち、歴史に啓示された、たつた一度きりのことです。ですから、今は天におられ、神の右に座しておられるそのキリスト・イエスに向かって、「マラナ・タ」と、わたしたちが真剣に主の再び来たり賜うことを祈り願うことは、終末の恵みが備えられますように、と願う祈ることでもあります。それは、同時に喜びをもって主を再び迎え入れる信仰の準備が出来るほどに、わたしたちの主なる神への信仰を確かなものにさせてください、と主に感謝して願い祈り続けることでもあります。

旅に出よう

コロナ禍による制限が
少しずつ解除されてきました。
行動範囲も広がってきて
今まで出来なかったことをやろう
という気分にもなってきます。
今、旅に出たいところはありますか？
また、思い出の旅と言えばどんな旅ですか？



旅の思い出

大倉紀子

1998年、夫が引退してから私たちはよく外国旅行をしました。飛行機やホテルの手配から行先の計画を立てて旅が始まります。

2002年のアメリカ大陸横断の旅では1年以上前から計画をねり、アメリカの友人の助言で安全な北のコースを選びました。サンフランシスコからボストンまでの28日間、7千kmの旅です。3日間行けども行けどもトウモロコシ畑の間を走り、自然の豊かさと人間の営みの深い関係を知った気がしました。広大なイエローストーン公園や、映画で有名なデビルスタワー（『未知との遭遇』）、4人の大統領の顔が彫られたサウス・ダコタの岩山（『北北西に進路を取れ』）など今でもよく思い出します。持参した炊飯器とお米でおにぎりを作って映画『シェーン』に出てくる雄大な草原で昼食を取ったのは忘れられません。

もう一つ思い出の深い旅として2017年、初めてのイタリアの旅があります。このときはツアー旅行でした。ローマを出発しアッシジを通り、フィレンツェではウフィツィ美術館の貸し切りで、あの『ヴィーナスの誕生』の絵画の前で記念撮影もしました。ミラノではレオナルド・ダ・ヴィンチの『最後の晩餐』を鑑賞出来ました。

この旅に触発されて、翌年再びフィレンツェを訪れ、今度はフィレンツェにあるフレスコ画の『最後の晩餐』を見て回ることにしました。フィレンツェにあるフレスコ画の『最後の晩餐』は9枚を認していますが、そのうち8枚を鑑賞することができました。フレスコ画は漆喰を塗ってまだ完全に乾かないうちに顔料で描くという特殊な技法で、年月が経っても退色が少ないそうです。修道院の食堂の壁に描かれていることが多く、今では使われていない建物やホテルになっている所にもあり、探すのに苦労しました。

この旅はコロナ感染拡大の直前でしたので旅が途絶えてしまいました。大変残念に思う日々です。

思い出の旅

大西 順

思い出の旅という題で真っ先に思い浮かんだのが、高校2年生の時にクラスで行った沖縄県津堅島への修学旅行でした。「修学旅行で島？」と思われるかもしれませんが、世間では本当に全く知られていない島を、クラス霧島組は修学旅行先を選びました。

ちょうど我々の学年は、学校側が試験的に生徒に修学旅行の行き先と内容を決めさせてよいことにした、いわばラッキーな学年で、そうならば私は早速修学旅行委員に手を挙げて、行き先は北海道か沖縄という選択肢の中、迷いもなく沖縄を推しました。でも単に沖縄に行つてバスで観光地を周るのだけではつまらないと、離島へ行くことを提案し、インターネットも無い時代に何も情報がないまま、沖縄県の地図を広げ「ここ」と指差して、周囲8kmのうるま市津堅島を歩き先にクラスでの多数

決の上決めました。

全く未知の、観光客など誰も行かない無名の島へ行つて、本当に修学旅行として成立するのかとドキドキものでしたが、那覇からバスで勝連半島の南端、平敷屋港へ行きそこから漁船で30分の津堅島へ到着すると、そこは周囲をサンゴ礁に囲まれた美しい島でした。漁船を2隻チャーターして、クラス全員で沖に出てサンゴ礁の上で停泊し、船から飛び込んで泳いだり、潜つて海底付近にいるハリセンボンの口に針を引っ掛けて、船の上にいる仲間が引っ張り上げた、防波堤から海に飛び込んで、防波堤の根元を探ると30cmほどの伊勢海老がいて手で捕まえたりと、それはそれは夢心地の楽しい時間となり、修学旅行は大成功となりました。

それから45年経つた今、その時の修学旅行委員の仲間と集まり、あの感動忘れられぬ津堅島に、「同じクラスのメンバーで再び行こう！」という話が持ち上がり、今年の11月に当時の同級生たちと修学旅行パート2をやらうと計画を練っています。

二つの森

門田由紀子

旅してみたい場所：頭に浮かんだのは屋久島です。日本で初めて世界自然遺産に登録され、太古からの時を刻み、貴重な自然が豊富に残る神秘の島。

前回の『栄光』で、ノルディックウォーキングを通して自然歩きに魅了されていることを書きました。自然のなかに身を置くと、心が開放されていくようで、今も続けて歩いています。そしてだいたい長距離を歩く自信もついたので、いつしか屋久島の森へチャレンジしたいと思うようになりました。

最も長寿で、屋久島最大といわれている縄文杉を訪れるには、往復約10時間のトレッキングが必要だそうです。自然が相手ですから畏敬の念を持ち、様々なことに留意し、また今以上に体力もつけていかなければならないでしょう。何事にも備えが必要と感じます。「樹齢千年を超える屋久杉の森の

なかを歩いたら、どんな気分を味わえるのだろうか。『もののけ姫』の舞台のモデルとしても有名な、白谷雲水峡での森林浴も憧れる。せっかくだから奄美大島へ行き、奄美の自然を描いた日本画家、田中一村の記念美術館にも立ち寄つてみたい」、そんなことを想像すると気持ちが高揚してきます。

こんな風に旅を想像し、心豊かになる時間は恵みの時であり、今こうした時を持てる環境に置かれていることは感謝なことだと思います。

世界には、苦しみや悲しみの中にいる方が多くいます。コロナや争いにより、尊い命が失われ、美しい歴史的建造物や、時間をかけて築いてきた日常が壊されていく様子には、心が痛みます。いま起こっていることを知り、何ができるかを考え、その方々が一日も早く平穏な日々を取り戻すことができますよう、神さまに願い祈ります。

また自由に国々を旅することができるようになったら、ノルディック発祥の地フィンランドの森も歩いてみたいと思います。

思いがけない旅行

鈴木こづえ

柏の畑で一緒に作業していた友人が「一人で旅行に行くんだ。一人旅なんて何十年ぶりだよ」とウキウキした口調で言ってきた。その後、楽しかったみやげ話を期待した私に「旅行は体調に不安があつて中止したの。行けなかった私以上に夫ががっかりしたの。私と離れてノンビリしたかったんだわ」と教えてくれました。そこで私は「一泊で箱根に行かない？」と友人を誘い計画しました。旅行の準備をしていた前日の夕方、いとこの訃報が入りました。突然のことで驚き、旅行をキャンセルしなくては、友人に話さなければと混乱しました。でも落ち着いて考えてみると、旅行の二日目は友人と別行動をすれば小田原で行われる昼からの葬儀に出席できるので予定通り出発しました。

天候は雨降りて電車、登山電車、ケーブルカー、ロープウェイ、ビ

れに乗っても外の景色は見えませんでした。しかし芦ノ湖では修学旅行を楽しんでいる高校生と出会えてうれしい気持ちになったり、雨に煙る景色の中に消えてゆく海賊船の出港の様子をコーヒーを飲みながら見送りゆったりとした気分浸ったり、日常の生活から離れて夕暮れの景色を楽しんだり、温泉に入り体をほぐし、非日常を味わいました。

次の日の朝、友人と別れ小田原で夫と合流し、葬儀に参列しました。近親者のみの集まりで、参列者全員で体を清め、死装束を着せ、棺に納め見送りました。夕方、友人と会うまで湯本の立ち寄り湯で休憩を取り、帰途につきました。

一人旅を中止としたという友人の一言から箱根行きが計画され、直前の訃報も目的が箱根であったために葬儀に参列でき、参列したから病気の発見から亡くなるまでの2ヶ月間の本人、家族の戸惑い、不安、苦悶を知ることが出来、家族の深い悲しみを感じることが出来ました。振り返ると、初めから終わりまで神様に守られ導かれた旅行だったと思えました。

バッハへのひとり旅

角田 晋

1999年、ベルリンに診療班を依頼された時の帰りのことである。ベルリンからフランクフルトまでの間に、バッハが生活していた町がいくつかあることに気づき、その街々を訪ねることにした。

バッハは1685年アイゼナッハで生まれ、1750年ライプツヒで亡くなっている。バッハに関心を持ったのは、学生時代の後半、確かマタイ受難曲を聴いてからだと思う。カンタータ全集が発売され、レコードやCD、また書籍を求めるようになった。その年の年、朝日カルチャーセンターで、バッハの講義を受講したことも一因である。

さて、旅行のことであるが、まずは、電車でライプツヒに向かった。最初に向かったのは当然のことながら、バッハが埋葬されている聖トーマス教会へ。しかし、教会は修理中で詳しくは見られな

かった。バッハ像とその隣にあるバッハ博物館を見学し、また聖ニコライ教会、ゲバントハウスなどに寄り、カフェインマーマンにも行くが食事はせず、宿泊地のワイマールへ。ワイマールでは9年間住んだということであるが、バッハの痕跡は塀に取り付けてあるプレートしか見られなかった。

翌朝アイゼナッハへ向かう。バッハの生家を訪れた後、バッハが洗礼を受け、ルターも学んだこともある聖ゲオルグ教会とその近くにある、ルター記念館に寄る。アイゼナッハはルターが聖書をドイツ語に翻訳したワルトブルグ城の麓ということもあり、ルター記念館には旅行者が多く、ルターという印象を受けた。この街に生まれたバッハが、十字架の神学者ルターの影響を強く受け、信仰を持って作曲し、十字架の音楽家といわれているのもうなずけた旅であった。



狩野進之佑牧師就任式報告

6月12日、就任式の日は前日のそば降る雨模様とは打って変わって、狩野進之佑先生を祝福する晴天が広がりました。

私と、青年会で狩野先生にお世話になった息子の歩は、長老会の命を受け、愛知守山教会の礼拝と就任式に出席するため名鉄瀬戸線小幡駅に向かいました。愛知守山教会は閑静な住宅街の一角にあります。受付では婦人会の方や経堂北教会にご挨拶に来てくださった古田正次長老が温かく迎えてくださいました。ご婦人方は若い歩を見て少し驚いていらっしやいました。朝の礼拝での説教題はテサロニケの信徒への手紙一4章9節、12節、「明日、世界が終わるとしても」でした。終末や再臨について心騒がす私たち人間に対し、信仰によって義とされ平安でいられることの大切さを説く、今の世の中にあつて全てが心に刺さるお話でした。あの落ち着いたトーンで話す狩野先生は心なしか、経堂北教会にいた時より、堂々としていられるように感じました。それは出席

した私たち親子にとつて嬉しく誇らしくさえ思えるものでした。

午後は古田長老のおもてなしで狩野先生と共に昼食をご馳走になり、教会裏にある牧師館にもお邪魔しました。中部教区総会議長・名古屋教会の田口博之牧師司式による就任式は力強く、そして「私たちはいつでもサポートしていきます」とのメッセージはきつと若い狩野先生の心に染み渡ったことでしょう。

2年間無牧であったことは大変な苦労があつたと思います。親子して経堂北教会からの応援メッセージを直接皆さんにお伝えできたことは、本当に良かった、とホッとしています。

(牧内美和)



Book

聖書の御言葉に
思う

奥山順子 著

5月のある日、我が家に書籍が届きました。差出人は敬愛する奥山順子さん。包みを開けると、この『聖書の御言葉に思う』が入っていました。聖句を中心としたカリグラフィの本です。

奥山順子さんはロンドンでカリグラフィを学び、聖書に忠実に御言葉の数々をカリグラフィで紡いでこられました。この本は前作の『聖書の植物に思う』に続く2冊目です。折々にいただくカードなどからもどんなに励まされ力づけられてきたことか。また、カリグラフィがこんなにも豊かな表現をもつことを彼女の作品を通して知ることができました。

奥山さんとはロンドンで一緒に過ごした。シドニーの現地の教会で受洗した私は、帰国後に教会を決めかねているうちに夫の次の赴任先がロンドンに決まりました。当地での生活が始まってまだ間もな

い頃、何の集まりだったのか、何故だったのか、奥山さんに「クリスチャン？」と訊いていただき、自宅も奥山邸に近かったことから家庭集会、盛永進牧師(当時)のロンドンJCFにと信仰の道がひらかれるようになりました。

我が家のリビングルームには今も『FOOTPRINTS』(詩『あしあと』)の額が壁の中央に飾られて、毎日と一緒に過ごしています。奥山さんが贈ってくださった作品です。ロンドンのある日、長男が自宅で倒れ、救急医療の甲斐もなく3日後に天に召されるといふことを、私たちは経験しました。彼は馬が大好き。友人もできて、受験準備も順調、パブリックスクーラライフを満喫していました。突然の悲しみの中でただ幸いだったことは盛永牧師により病床洗礼がかなったこと。『FOOTPRINTS』は悲嘆の中でも絶望することなく、御心に支えられて生きていく私たちです。この『聖書の御言葉に思う』によって著者のあたたかい人柄に触れ、改めて御言葉を深く心にとめていただければと思います。

(石垣礼子)

説 教

『聖霊の不思議な働き』

ヨエル書3章1節～6節
使徒言行録16章6節～10節

岸 俊彦

聖霊は教会を生み出し（使徒2・1以下）、信仰者を誕生させます（1コリント12・3）。パウロの伝道旅行も聖霊の働きでした。「聖霊が禁じ」たり「イエスの霊が許さない」こともありましたが、そのおかげでギリシアにキリストの福音が伝えられました。

パウロは第2回目の伝道旅行に出发する直前、仲間のバルナバと方針の違いから衝突しました。一人トルコ西岸の港町エフェソに旅することになりました。トルコ内陸部を西から東へまっすぐ進むうとしましたが、聖霊に禁じられました。そのため北に逸れ、イスタンブールを目指したのですが、今度はイエスの霊に阻まれました。結局トロアスまで辿り着きました。そこにマケドニア（ギリシア）人の幻が現れ、「わたしを助けてください」との声を聞いて、「マケドニア人に福音を告げ

知らせるために、神がわたしを召されているのだと、確信するに至った」（16・10）のです。

パウロ自身の手紙では、エフェソに行かず北に逸れてガリラヤ行きとなったのは、病気のためだったと記されています（ガラテヤ4・13、14）。トルコ南部地中海沿岸の道は暑さが厳しいため、それを避け転地療養を兼ねて高地のガラテヤ地方（現在のアンカラ周辺）に移動したのです。パウロの意図と違って第2回目の伝道旅行が思いがけず遠回りとなったのは、ルカの伝えるところによると聖霊やイエスの霊、幻が示したことでした。パウロ自身からすれば、さげすまれたり忌み嫌われたりするような病がきっかけでした。

元気だった者が病気になるれば人生を振り返ります。今までを考えます。これからの見直します。病気が新しい人生の扉を開くことも

あるでしょう。そこにも聖霊の働きがあります。

『このころの友』6月号の1面は星野富弘さんの記事でした。星野富弘さんは中学校の教師となつてたった2ヶ月で、器械体操の指導中、頸椎を損傷して首から下が全く動かなくなりました。9年間の入院中サインペンを口にくわえて花を描き、それに詩を添えるようになりしました。差し入れられた聖書を読み、受洗しました。

『風ぐるま』という詩画があります。「風ぐるま」とは花の名前です。

風ぐるまが

音を立てている

鯉のぼりが

空をかけ上がってゆく

二千年の時を超えて

吹いてくる風を

私も全身に受けている

聖霊の「霊」はギリシア語もヘブライ語も「風」という意味があります。星野さんが全身に受けている、二千年の時を超えて吹いてくる風とは聖霊に違いありません。教会を生み出し、私たち信仰者を生み出す聖霊の風です。「今

まで、何かをしようと思ったことは一度もない。生きていけば、神さまが何かをさせてくださるのだから。神さまにおんぶに抱っこです！」と星野さんは語ります。

福音が語られ、聞かれるところ、聖霊の風が吹きます。

一つの時代も、私たちが生きている今は、予測不可能です。特にこのコロナ禍に加えて戦争の状況は本当にどうなるか分かりません。だとしたら、自分の思いや、思惑や、これまでの経緯にこだわりのをやめて、御言葉に聞きつつ、祈りつつ、目覚めて、主が何をなさってくださいるか、しっかりと見極めたいと思います。

どんなことを通して神が私たちを召されているのか分らないからこそ、一つひとつのことを注意深く、受け止めたいと思います。いいことばかりか、いやなことを通してでも、主は私たちに召してください。不思議な聖霊の働きにお任せしましょう。主の不思議な導きを信じましょう。戸惑うような出来事にも、きつと主の御手が伸びています。（聖霊降臨日礼拝説教）

東京教区総会議報

5月31日(火)と6月1日(水)の2日間、北区赤羽会館で3年ぶりに対面方式で開催された東京教区総会に出席してきました。

祈りをもって会議が始まり、一つひとつの報告や議事の度に祈りがある。異なる意見が出て、祈りの言葉でまたみんなの心が一つになることが出来ました。

議長・副議長改選、常置委員半数改選(教職5名・信徒5名)、教団総会議員選挙(教職26名・信徒26名)と、今回の総会でも選挙は重要な案件でした。選ぶのも大変で、出席者263名全員が書き終わるまで時間もかかりました。選挙管理委員会の方々も大変だったことと思います。

コロナ禍で任期が1年延長となっていた岸先生の総会議長としての役割も、今回の選挙で柿ノ木坂教会の渡邊義彦議長に引き継がれました。これまでの長年のお働きに感謝いたします。しかし先生は教区常置委員、教団総会議員に選出されましたので、そのお働きと伝道推進のために引き続きき

なで祈りを合わせていけたらと思えました。

教団出版局はずっと「経営状況が厳しい」と、経堂北教会の長老会でも度々聞かされてきました。今回の総会では会計も含めた現状報告がありました。経営コンサルタントの方を迎え、経営改善に向けての取り組みがなされ、2021年度においては若干の黒字を見込んでいるとのことでした。私が勤めているデザインコンピビアは1983年から『信徒の友』と『ころの友』に関わっているため、これからも長く伝道のために用いられて欲しいと願っています。

会議に出席し、色々なことを感じ、改めて分かったこと、この2日間でした。
(沢田寛子)



長老のファイル

牧師館前の庭に白ユリの花が咲きました。梅も収穫出来たのと、梅雨明けは近いでしょうか。

コロナ感染者の数が減り、世の中のコロナ対応も新たな段階に入り人の動きが変わり始めています。人々が集う機会が増え、学校生活でも修学旅行や林間学校などの行事が感染対策をしながら再開しています。笑顔の場面が増えてきていることでしょうか。礼拝出席者も教会学校の子どもの出席も少しずつ増えてきています。再会し、目と目を合わせマスク越しにでも話をし、励まし合えることは本当に嬉しく、気持ちも元気になります。一日も早く安心して皆で礼拝を守る日が来ますようにと祈ります。それまでは今まで同様、皆様にご協力いただきながら感染対策に気を付けつつ礼拝を守ってまいります。

岸先生は教区の定期総会を経て無事に東京教区総会議長の重責を終えられました。コロナ禍で任期が延び、難しい局面、牧会に加え

でのお仕事はとでも大変でいらしたことでしよう。主が今までのお働きを労ってくださいますように。

牧師一人体制になり、経堂北教会から巣立った懐かしい先生方が説教奉仕に来てくださっています。狩野先生の愛知守山教会の就任式には牧内長老と歩君が代表として立ち会ってくださいました。喜びを共有し、主のもとに一つに繋がっていると実感する恵みです。

長老会は3年後の岸先生の定年を見据え、経堂北教会の将来構想という大きな課題を与えられています。牧師が与えられ、礼拝を守ることが出来るその恵み・重みを強く感じます。大切な多くのことを熟考し、配慮をもって検討する必要があります。限られた時間の中で主の御心を尋ねつつ取り組んでいこうとしています。どうぞ皆様も祈りをもってお支えください。

「神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている」(ロマ8:28 (口語訳))。
(小嶋幸子)

牧師の書齋から

コロナ禍がやや落ち着いてきたため、介護老人保健施設などで面会ができるようになりました。介護付有料老人ホームなども同様です。ただ、家族の同伴が必要だったり、まだまだ自由に面会できるわけではありません。

3回目のワクチン接種済証明書が求められたり、マスク、消毒、検温、事前の健康チェックはこれらの施設でも変わりなく行われて

います。居室に入ることのできる施設もあれば、面会室という施設もあります。大人数の施設とこちらは屋外から窓越しに携帯を使って面会という所もあります。面会時間は10分、15分、30分と様々です。聖餐を祝うことができる所もあれば、そうでない所もあります。それぞれの施設の状況によって様々です。

本当に久しぶりに面会して、マスクを取って「お互いすっかり年老いた」となるかと思いきや、幸い「皆さんお変わりなく」どころ

か、以前よりお元気な様子で安心しました。施設によるのですが、規則正しい生活のおかげではないでしょうか。きちんとした食事と健康管理がそれぞれの生活を守っているのでしょうか。ご本人はどう考えているかは分かりませんが、起きたい時に起き、服も適当食べたり食べなかつたり、人目のない気楽な生活では健康を維持できないのではないのでしょうか。

キリスト者の生活も礼拝を中心として、日々祈り、聖書を読み、集会に出席するなど規則正しい生

活が大事にちがいません。信仰者としての体力は規則正しい生活によって維持されます。

面会にはまだ予約が必要です。東京教区総会議長を交代してかなり融通が利くようになりました。空白の目立つ月報の予定表を見れば分かります。それぞれ教区・教団のお役を引き受けてくださっている方々には申し訳ありませんが、引き継ぐことも大切です。この教会での使命も引き継ぐことができよう、祈りつつ長老と共に準備を進めたいと思います。(岸俊彦)

個人消息



掲示板



◎東京教区総会で渡邊義彦議長（柿ノ木坂）、伊藤英志副議長（三軒茶屋）、遠藤忠書記（むさし小山）が選ばれました。岸牧師は教区常置委員、教団総会議員に選出されました。

編集後記



▽編集当日は、6月なのに35℃の猛暑日でした。3年前の今頃フィレンツェで体験した猛暑を思い出しました。(酒井)

「栄 光」2022年7月号
 日本基督教団 経堂北教会
 〒156-0051 東京都世田谷区宮坂 3-21-11
 電話：03-3428-5029 / FAX：03-3428-5038
 牧師：岸 俊彦
 編集：栄光編集委員会
 Email：kyodon@nifty.com
 HP：http://kyodokita.life.coocan.jp